

大隈正侯爵一年四月贈

1920



114
A 3046



郵便新法按中新聞雜誌ノ料額ニ就テ左ノ三問接ア
リ即チ

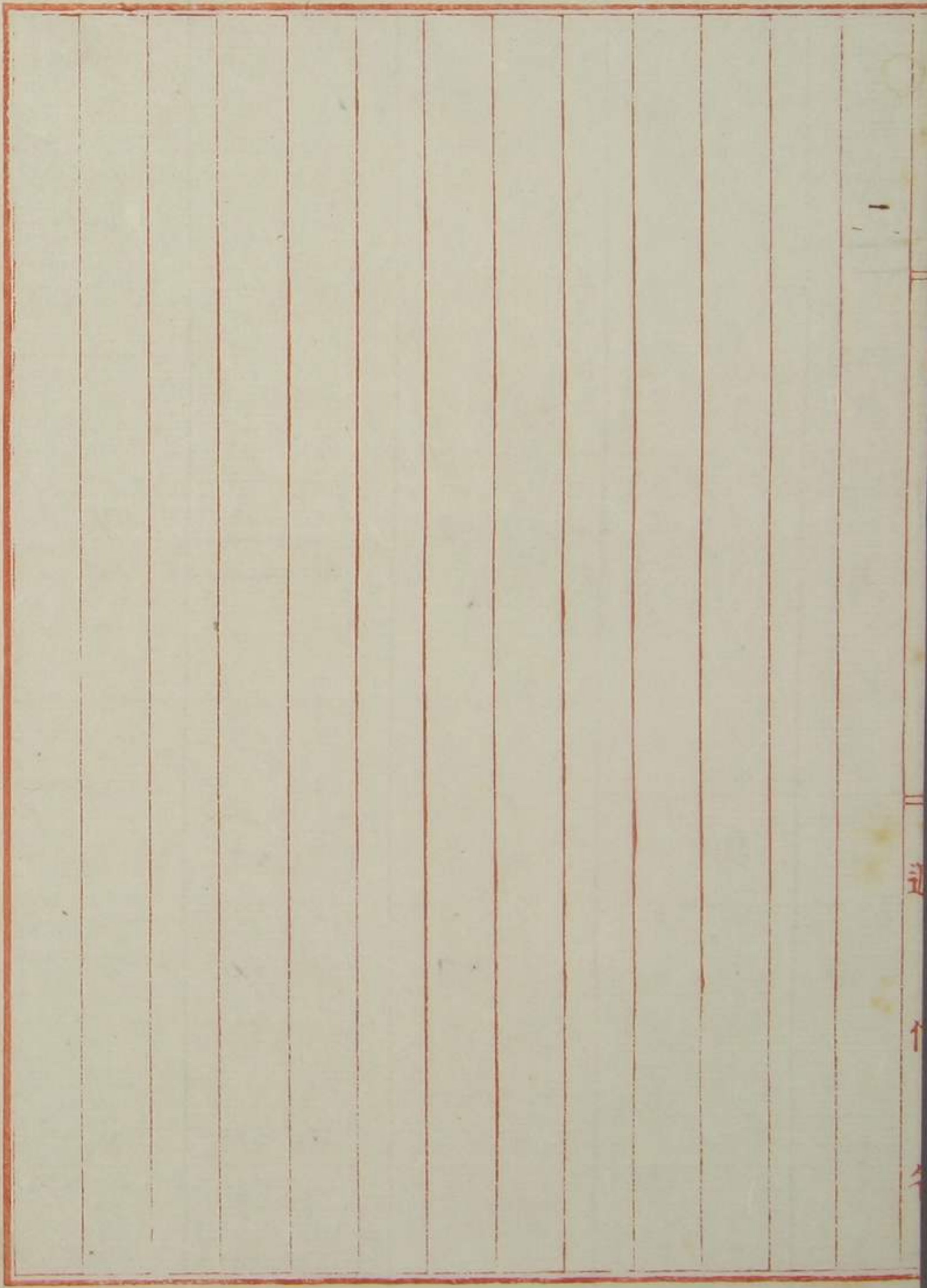
第一 定時刊行物ハ其發刊地三里以外ノ遞送配
達ヲ郵便ニ專有セシメ而シテ其郵便料ヲ三
厘トナス

第二 其遞送配達ヲ從前ノ如ク自由ナラシメ又
其重量モ從前ノ如ク壹個十六文目ナラシ
メ而シテ其郵便料ヲ五厘トナス

第三 其遞送配達ハ從前ノ如クナラシメ其重量
ヲ壹個八文目トシ而シテ郵便料ヲ五厘トナ
ス

今定時刊行物郵便專有ノ理論如何ヲ喋々セサルナ

大正十一年四月
大隈侯爵贈



リ又其郵便料低減ノ理由如何ヲモ叟々セサルナリ
然氏此事務ヲ掌管スルニ於テハ其經濟ノ點及便否
ノ如何ハ深ク之ヲ講明シテ豫メ議ノ決ヲ仰サル
ヲ得サルナリ

先ツ第一即チ專有シテ三厘トナスノ件ヲ陳述セン

明治二十年ニ於テ郵便ノ新聞雜誌ヲ運送配達シ
タル數ハ壹千八百貳拾四萬餘ナリ(明治二十一年
ハ未ク其數ヲ知ラス)前年ニ於ケル數ヲ以テ之ヲ
二十二年ニ推スキハ蓋シ其數貳千萬ニ下ラサル
ヘシ

概觀スルニ新聞雜誌ノ種類近時頗ル増加スル
モ種類ノ増加ニ以シテ其發刊ノ數ヲ増サ、ル

如シ(藝許ノ増數アルモ)又鐵道ノ便ヲ通シ舟車
ノ便ヲ加ル毎ニ其便アル地方ニ送達スルモノ
ハ郵便ニ依ラサル傾向アルヲ以テ二十二年
ニ於テハ此増數過去逐年ニ以シテ推算シ得ヘ
キヤ否ヤヲ知ルヘカラス然モ貳千萬ノ箇數ハ
過不及何レモ大差無カルヘシ

果テ貳千萬ヲ確數トスルキハ現行郵稅ヲ以テ(壹
個壹錢)貳拾萬圓ヲ收入ス然ルニ此新定ノ料(壹個
三厘)ヲ以テスルキハ拾四萬圓ヲ減シ其收入額ハ
六萬圓トナルナリ

而テ此拾四萬圓ノ損失ヲ償フニハ專有ノカヲ以
テ新夕ニ四千七百萬許ノ定時刊行物ヲ取ラサル
ヘカラス即チ二十二年度ニ於テハ其總數六千七

百萬許ノ遞送配達セサルヘカラス
然ルニ明治十九年ニ於テ發刊シタル新聞雜誌ノ
總數ハ踰シテ八千八拾壹萬許(内務省届ニ依ル)ト
為スト雖氏新聞社ハ動モスレハ虚數ヲ張り販賣
高ヲ二三ニストハ皆是レ人ノ許ヌ所ナリ故ニ真
數ヲ得ント欲セハ惟フニ之レカ三割ヲ減シ五千
七百萬許ト為シテ可ナラシ是ヲ以テ之ヲ推スル
ハ二十二年度ニ於テハ此發刊ノ總數或ハ七八千
萬ノ間ニ在ルヘク蓋シ壹億萬ニハ遠ク及ハサル
ト甚シカラシ
既注ニ徵スルニ凡テ定時刊行物ハ其發刊地ニ配
達スルモノ多キニ居リ東京ノ如キハ其半ニ過ク
ト或ハ概シテ其半數ハ發刊地三里以内ニ配達ス

ト言フ者アリ果ラ然ラハ若シ幸ニシテ二十二年
度ハ發刊ノ總數壹億萬ニ及フトスルモ郵便ヲ以
テ送達スヘキ物數ハ五千萬ニ止ルヘシ
此新定ノ料率ヲ以テ貳拾萬圓(現行ノ稅率ヲ以テ
收ムル額)ヲ收入シ二十二年度ノ收額(己ニ内閣ニ
提出シタル豫算收入額)ニ充ントスルニハ六千七
百萬許ノ物數ヲ得サルヘカラス然ルニ前記ノ如
ク僅ニ五千萬ニ止ルトセハ己ニ壹千七百萬許ノ
物數ニ不足アリ
右ハ只推測ノミ豫想ノミ故ニ實際ノ當否ハ二十
二年度ヲ了ルニ非レハ知ルヲ得ス然レ氏左ノ事
項ニ就テハ今ヨリ之ヲ明知確言スルヲ得ルナ
リ

二十二年度ハ國會開設ニ際スル時ナリ商業モ亦
興起ニ際スル氣運ナリ政事上ニ商業上ニ是時刊
行物ノ増進ヲ促スヘキノ勢アリ故ニ前記ノ六千
七百萬許ノ物數ハ之ヲ郵便ニ取リ得ヘク即チ収
入額ハ豫算ノ如ク貳拾萬圓ヲ納メ得ヘントスル
モ若シモ果シテ其數ヲ得ルキハ其歲出ノ部ニ於
テ拾四萬圓餘ノ超過アリトス

新聞雜誌一箇當リノ遍送配達取扱等直接ノ費金
ハ若干ナリト未タ確知シ能ハスト雖モ至少ノ極
度三厘ヨリモ下ラサルヘシ(但間接ノ管理費ヲ除
ク)惟フニ之ヲ細算セハ五厘ニ上ルモ知ルヘカラ
ス(或ハ七厘ト謂ヒ八九厘若クハ壹錢ニ上ルト謂
フモ之ヲ取ラス)果テ三厘ヲ費ストセハ入レハ則

チ出ルナリ換言スレハ相償テ零トナルナリ故ニ
低減シタル七厘ノ積數拾四萬圓ノ損失ハ歲出上
ノ過超トナルナリ

若シ不幸ニレテ三厘以上ヲ費スルハ物數ノ増加
ニ併行シタル費用ヲ増加シ永劫其損失ヲ償納ス
ルノ期死カルヘシ

人或ハ曰ク錢道大ニ伸張セハ其損失ヲ償ヒ得
ヘク幾許ノ利益ヲ生ズルトモ有ルヘント或ハ
然ラン然氏其時ハ何レノ日ニ在ルヘキヲ望ム
ヘカラス而テ又其憶想ノ利益ハ實ニ漠然タル
ノ甚シキモノナリ計ルニ白耳義ノ如キ平坦地
多キ小國ニシテ錢道又ハ馬車道ノ普設セルニ
非ルヨリハ三厘ノ料率ニシテ損益相償フテハ

省

望に能ハサルニハ非ラランカ

前記經濟上ノ論題外ニ購讀者ヲシテ遅延ノ不便ヲ
鳴ラサシムルハ實ニ當局者タル小官等ノ最モ苦痛
ヲ感スル所ナリ否此苦痛ハ政府ノ堪ヘサル所トナ
ルモ知ルヘカラス何トナレハ此遅延ハ政治商業交
際上ニモ時トシテハ莫太ノ損害ヲ與ルヲ以テ施政
ノ一大欠點トシテ論セラレ中外公衆ノ恨トナルヲ
以テナリ

此新法ハ只新聞社ヲ利スルノミ又之ヲ助テ從前彼
等カ被リタル配達遅延ノ苦情ヲ免レシムルノミ官
ハ利スルヲ死ク或ハ損失ヲ招キ購讀者ハ遅延ノ為
メニ幾多ノ便利ヲ失ヒ或ハ時トシテハ莫太ノ損害
ヲ被リ(多少ノ郵便料配達料ヲ減スルノ利ヲ得ル者

アルモ)實ニ施政上ニモ獲利上ニモ全ク其宜シキヲ
得サルモノナラン乎而テ新聞社等ハ之ニ由テ自ラ
利スル所アルニモ係ラス他人ノ苦情ニ相伴ヒ必ス
嗷々ナルナラン請フ此等ノ點ニモ注慮アラント
次ニ第二即チ從前ノ如ク郵便ニ依ルモ依ラサルモ
随意ナランノ拾六文毎ニ五厘トナスノ單一減料主
義ニ向テ陳述センニ

前記ノ如ク二十二年度ノ定時刊行物ノ郵便數ヲ
貳千萬個ト推算スルハ現行ノ稅率ニ依レハ貳
拾萬圓ヲ收入スヘキニ五厘即チ半減ノ料トナル
ヲ以テ此收入額ハ拾萬圓トナルナリ
此收入額拾萬圓ノ損失ヲ償ハシニハ更ニ貳千萬
圓ノ物數ヲ得サルヘカラス然レモ隨意主義ノ減料

ナルヲ以テ此減料ノ為ニ果テ其夥多ノ物數ヲ
得ルヤ否ヤヲ知ルヘカラス惟フニ舟車ノ便ニ賴
ルモノハ依然舊時ノ如クナルヘク必ス為ノニ郵
便ニ依ル者ヲ増サ、ルヘシ但為ノニ幾分ノ増加
ヲ見ルヘシト雖モ未タ其數ヲ憶算スルノ材料理
由ヲダモ得サルナリ

若シ試ニ此二十萬箇ヲ新ニ得ルトスルモ之ヲ送
達スルノ費金六萬圓ヲ要ス即チ歲出額ニ六萬圓
ノ(己ニ提出シタル収入豫算ニ對シ)過超ヲ生スヘ
シ

第三即チ第二ノ如ク隨意主義ニシテ壹箇八匁毎ニ
五厘ト為スノ前項ニ對シテ其得失ヲ陳述セシニ
此項ハ第二ニ以シテ別ニ大差アルヲ死シ唯僅ニ

一号八匁以上ニ及フ雜誌ニ向テ壹錢ヲ徴スル利
アルノミ

然レ近時雜誌ノ流行スル其發兌ノ頻繁ニシテ其
刊行ノ數モ多キ者アリ故ニ或ハ年計貳百萬箇ニ
上ルナランカ果テ然ラハ第二項ニ以スレハ壹萬
圓ノ損失ヲ輕クス故ニ此項ニ決スルキハ歲入九
萬圓ヲ減スルモノト為シテ可ナリ

第二第三ハ何レニ之ヲ施行スルモ新聞社及購讀者
ニ於テ何等ノ苦情ヲモ鳴スヘキ死シ但第三項ヲ施

スルハ雜誌ニ就テハ別ニ恩惠ヲ被ルヲ無ク送前三
号ヲ一束トシ十六匁以内壹錢ニラ送達シタル者ニ
於テハ五厘ノ増課ナラズ以テ多ク苦情ヲ發ス

右三項ノ要領ヲ摘記セハ左ノ如シ

第一 歳出ニ 拾四萬圓餘ヲ増ス

若シ物數五千萬ニ止ルキハ

歳入モ亦五萬圓ヲ減ス

新聞雜誌社ヲ利シ購讀者ニ不便損失ヲ

與フ

第二 歳入ニ 拾萬圓ヲ減ス

若シ歳入額ヲ償フキハ

歳出ニ 六萬圓ヲ増ス

新聞雜誌社購讀者ニ苦情無シ

第三 歳入ニ 九萬圓ヲ減ス

若シ歳入額ヲ償フキハ

歳出ニ 五萬圓ヲ増ス

再ヒ此三項ノ要ヲ筆記スレハ

第一 拾四萬圓餘ノ歳出ヲ超過ス

第二 拾萬圓許ノ歳入ヲ減サス

第三 九萬圓許ノ歳入ヲ減サス

副申

價額表記及賠償ノ制善ハ固ヨリ善ナリト雖モ若シ
數千若クハ數萬圓ノ償金ヲ要スル不幸ニ際スルキ
ハ其償金ハ別途臨時ニ支出スルヲ許サルルヤ或ハ
若干萬圓ヲ本省経費中ニ算入シテ備ヘラル、ヤ又
ハ若干萬圓ヲ保險資本金トシテ本省ニ交付セラル

、ヤ等ヲ閣議ニ於テ決定セラル、ニ非サレハ之ヲ
施スヘカラスナリ
右ハ何レニ決ムルトモ其危険ノ度ヲ算測セサ
ルヘカラス然レ何ニ據テ測度スヘキカ現今ニ於テ
ハ推算スルノ所據ヲ得ス故ニ閣議ニ呈出スヘキ其
原按ヲ得サルニ苦シム
惟フニ臨時支出ノ官損金ト為スヘキ甚難ナルヘシ
乙ニ經費定額中ヨリ僅サナル貯金被詐取金スラ官
損ニ立ルヲ大蔵省ニテ否議スルノ先例アリ況ヤ幾
千幾萬ノ金額ニシテ危険ノ程度モ知ルヘカラス
ニ於テヤ
若レ何等款ノ理由アリテ未タ為サルヘカラスナルノ
必要ヲ生シタル理由ヲ見出サスト雖モ必ス為サ、

ルヘカラストセハ先ツ試ニ一回若干圓迄ノ保険ノ
制限ヲ定メ危険ノ程度ヲ低フン本省經費定額ノ幾
分ヲ割テ之ニ充ツヘキカ
本邦ノ人民ハ未タ保険ノ必要ヲ感スル者甚ク多カ
ラス(荷為替ヲ要スル者ノ外ハ)故ニ此保険法モ實際
必ス多ク行ハルヘカラス稀ニ有ルヘキ百分一ノ保
險料ヲ收入シテ一時ニ百分九十九ノ償金ヲ出スハ
營業主義ノ業ニハ非ルナリ
價格表記物ノ運搬及其保険ヲ通運會社ノ如キ者ニ
請負シメシカ何ソ本省自ラ其煩ヲ取ルニ及ハンヤ
寧ロ彼等ヲシテ自ラ專ラ之ニ當ラシムルノ優レル
ニ如カサルナリ
價格表記物殊ニ貨幣封入物ハ賊難ニ罹ルモノナリ

若レ郵便行李中ニ貨幣アリト公言セハ是ヨリ賊難
頻繁ナラン局内ノ賊ハ貨幣封入物其者ニ限ルト雖
モ局外ノ賊ハ行李中幾千萬ノ郵便物ヲ破却スレ
本邦ノ郵便物ハ未タ内外ノ賊ヲ防クノ術ヲ得ヌ通
運會社カ貨幣送達ニハ必ス一個宰領ヲ附ケ通シ之
ニ六連銃ヲ携帶センノ然ルモ尚日出日没ノ間ニ限
リ通行スルヲ以テ之ヲ見ルヘシ故ニ價額表記物ヲ
送達センニハ各道一個ノ信任スヘキ吏人ヲ銃
ヲ携ヘ車馬ニ乗ラレノ晝行夜泊ノ常宰領ヲ附セサ
ルヘカラス(夜間ト雖モ管主者死カルヘカラス通運
會社ノ宰領カ度々夜泊間ニ盜難ニ罹リタル例ヲ見
ルヘシ)然ルニ此宰領サヘ時々私借謁取ノ恐アリ(通

運會社ノ宰領ニ時々此弊アルヲ以テ見ルヘシ)到底
是等ハ全ク避クヘカラサルノ現況ナリ

前記常宰領ノ方法ヲ設ケスニテ遞送ノ方法ニ依ル
トセハ断レテ賊難ハ防クヘカラス若シ賊難ニシテ
屢々ナラハ我郵便ノ信憑ヲ失フ價格表記ヲ施サ、
ルノ未完ト其得喪ハ奈何ソヤ

小包

小包郵便ノ制モ亦要ハ元ヨリ論ヲ待タサルヤリ(小
官カ往月之ヲ關ント欲シテ計畫セル所アルモ兩
種ノ困難アリテ之ヲ為シ得サリシハ當時之ニ與リ
タル者ノ知ル所ナリ)然レ氏斯ハ是レ全國ヲ通シテ
開設スルヲ以テノ謂ナリ

鏡道又ハ汽船ノ通スル大市名邑ハ別ニ此官設ヲ要

セサルナリ何トナレハ鐵道ニハ鐵道局又ハ鐵道會社ノ小包法アリ汽船ニハ其會社及之ニ附屬スル運漕組等ノ有ルアリテ小包送達ノ設アリ之ニ加ルニ海陸共通運會社ノ送達ヲ加ヘ已ニ其便ノ之ヲ覺ヘサルニ至レルナリ今若シ彼等ト相競ヒ之ヲ開設スルト雖モ更ニ便宜ヲ益サ、ルヘシ或ハ恐ル官業ノ動モスレハ威嚴ヲ以テ接セラル、ハ私業ノ丁寧ヲ以テ應セタル、ノ好キニ如カサルヲ以テ小包郵便ノ業務ハ其名ノ整々ニシテ其實寡々タルノ景況ヲ看シ

然レ之ヲ開カサルヘカラサルノ理由アテハ之ヲ開クモ亦宜シ然レ之ヲ開カハ東京府下ハ何等ノ手續ヲ以テ配達スルマ惟フニ少數ノ小包送達料ハ府下

配達ノ費ニハ充サルヘシ通運會社ニ委託シテ配達スルノ實ニ恥ツヘキ状態ナランカ

然ラハ何レノ日ヲ以テ此開設ヲ望ムヘキカ曰クニ三年ノ後ヲ待タシ試ニ之ヲ計畫センニ本省ノ會計ハ營業主義トシ勉テ餘剩ヲ生セシムヘシ其餘剩ヲ以テ各地ノ局ヲ改築スヘシ量ルニ三年ヲ出スシテ此改築ヲ了ルヘシ已ニ改築ヲ了ルキハ年々十數萬金ヲ國庫ニ致スノ餘裕アルヘシ其餘裕タル則チ全國ヲ通シテ小包便ヲ開クノ資トナシ蓋シ其期ニ及ンテハ價格表記モ賠償保障モ徐次ニ施スノ時ナルヘシ額クハ二三年ノ短季ヲ忍テ以テ百年ノ長計ヲ成サシ

一部地方ニ施ス小包ノ事業ノ如キハ政府ノ為スヲ

要セサルナリ原來政府ノ本務ニ非ルナリ遍ク國內
ヲ通シテ之ヲ開設シ又ハ外國ト交換スルニ及ンテ
コソ政府ノ事業ト為スヘキナリ請フ此理義ヲ明ニ
セン彼ノ萬國聯合會ノ需求ニ應スルカ如キハ我國
内ノ開否如何ニ拘ハラス容易ニ應スルノ方法アル
ヘシ

